

部門別協議会

国際奉仕部門

カウンセラー・アドバイザー

中島治一郎 パストガバナー
 大澤 徳平 パストガバナー
 京谷 知明 アドバイザー
 北島 一樹 アドバイザー

ガバナー補佐・委員長

西山 利昭 IM 4 組ガバナー補佐
 三村 文男 IM 8 組ガバナー補佐
 中野 一郎 世界社会奉仕委員長
 豊岡 敬 青少年交換委員長
 田上 雅信 オン・ツウ・モントリオール委員長

SAA :

新井 康司・大木 誠治

進行 :

中野 一郎



挨拶

(カウンセラー・パストガバナー 中島 治一郎)

国際奉仕の中にはロータリー財団が含まれます。理事会でロータリー財団の問題を取りあげる場合には皆様方が担当者になる、とご認識下さい。国際奉仕の機会を皆様方のクラブの会員さんに届けて頂きたい、というのが1番の願いです。そしてそれを出来るだけ実施するようにご指導頂きたいと思います。ロータリーは唱えるだけではなく、実際に行って感動を味わうことが大切です。私たちは奉仕団体ではなく人づくり団体です。人づくりのためには感動が1番の動機付けになります。どのようにしたら会員を感動させられるかを中心に、考えて頂きたい。

現在をご存知の通り世界大不況です。ロータリー財団への皆様方からのご寄付は3年間活用し、その利益でいろんな経費をまかっています。3年間の運用の後に、全てを奉仕活動に使わせて頂いています。その運用方法は株式です。株での運用には賛否両論ありますが、長い目で見ますとやはりこれまで実績がありました。しかし今回の株の値下がりには異常ですので、かなりの含み損を出しています。地区大会の頃に事務総長から知らせが来まして、2億2200万ドル値が下がっているということでした。しかし今すぐに換金の必要もないので、いずれは元に戻るでしょう」という説明でした。現況を見ますと今後、活用がしにくくなっていることは事実です。従って近い将来に、プログラムの変更もあるかと思えます。明後日、日本の財団担当者と会いますから詳しく聞いてきて、内容によっては事務総長に交渉したいと考えており、きちっとした段階で

皆様方にも連絡させていただきます。皆様方には国際奉仕担当の理事として、これらの問題もご認識頂きたいと思えます。

ロータリー財団はまずプログラムありきです。そのプログラムを行うためにはお金が要りますので、それをご寄付頂くということをお願いしてきました。したがって寄付したお金がプログラムに使われないようなことは、あってはならないと思えます。ですから徹底的に調査して、交渉も行うつもりです。

ロータリー財団と国際奉仕委員会とはCLPでは特にはっきり分けられています。国際奉仕は社会奉仕・職業奉仕と一緒に奉仕プロジェクト委員会に入れられており、これはいけないことだと考えます。はっきり四大奉仕部門に分けられていますから、その部門別にいろいろ考えて努力して頂き、総じてクラブの方針を決めて頂きたいと思えます。日本は島国で国外の情報が入って来にくい状況にありますので、特に国際奉仕ははっきりしておいた方が良く考えます。

国際奉仕部門には世界社会奉仕活動と青少年交換があります。青少年交換を経験されますと皆さん、国際的な視野が広がり非常に成長されます。またそのような方とお付き合いをして頂きたいと思えますし、ただ話を聞くだけでも感動を覚えます。世界社会奉仕は元々は各クラブの会員の方が自分の商用旅行のついでに、発展途上国のロータリークラブでメーキャップし、話をしたところ困っているのので何とかしてあげたいと思い、帰国して自分のクラブで相談をして手を差し伸べたというものです。その後、良いプログラムだということで世界的に広がり、発展途上国でのニーズのリストが出来てきました。当地区では近隣の発展途上国にチームを組んで行くようになりました。

先日、バングラディッシュの地区大会に行ってきました。そこはニーズでいっぱいでした。識字率は非常に低いし学校もお粗末なものでした。食料も水も十分にありませんし、井戸を掘ってもヒ素が岩石に含まれているため、ほとんど飲めません。地区大会にはロータリアン4,000人中、1,000人が集まりました。著名な講師を招き話を聞き、いろいろな問題について討議して、今後の事業を選んで実施するわけです。私は多くの発展途上国に行きましたが、たいていは日本人の私のところにいろいろと頼みに来るわけですが、バングラディッシュではそのようなことはありませんでした。ねだることなく自分たちで何とか解決しようと、熱心に話を聞き、討議していました。教えに行き、逆に教えられることが多かったという印象がありました。

日本国内の地域社会においても社会奉仕活動として、まだまだやるべき事が多くあります。国際奉仕活動も回りの国には多くのニーズがあります。それぞれのクラブに合ったものを見つけて頂いて実施し、参加して頂き、そして感動して頂きたいと思えます。

世界社会奉仕について

(次期世界社会奉仕委員長 委員長 中野 一郎)

次年度RI会長も強調事項として、水保全・保健と飢餓・識字率向上を掲げています。各クラブでの社会奉仕事業を振り返って頂きたいと思いますが、水問題を考えた場合に例えば水源の保全ということで、河川の清掃活動等に参加されていると思います。保健を考えた場合は、エイズの啓発活動や献血をされていると思います。飢餓については、日本では食べ残しのゴミ問題のほうが深刻です。教育では青少年の健全育成に力を入れていると思います。



一方、世界に目を向けますとバングラディッシュや南インド、スリランカ、フィリピン、カンボジア、ネパール等が水問題で困っています。保健について海外ではエイズが問題になっており、特に南アフリカが深刻です。世界中で約7秒に1人の割合でHIV患者が増え続けています。飢餓の問題ですが現在、8億～10億人の人々が飢えに苦しんでおり、栄養失調で亡くなる人は年間約1,800万人です。世界中の5人に1人が、1日の生活費1ドル未満で暮らしています。そのような発展途上国にあるロータリークラブは、社会奉仕活動として日々活動されています。

世界社会奉仕(WCS)とは、2カ国以上のロータリークラブが協力し、地域の社会奉仕活動を行うものです。RIの強調事項は国際奉仕部門にかかっています。

次年度の当委員会の基本姿勢ですが、水保全・保健と飢餓・教育(識字率向上)を掲げたいと思います。各クラブの自主性を最優先するために、IMまたはクラブ主導型のWCS活動を推奨したいと考えており、その目標を達成する上で必要な情報と支援を提供したいと考えています。WCS活動を通じて各クラブ、会員の国際理解と平和親善をより推進出来ればと思います。

活動計画ですが、クラブ委員長会議を8月1日に開催します。次に、当地区では皆様のWCS活動を支援するために、独自の地区ファンドを持っています。これは会員1人当たり6,000円を上限にした同額補助です。クラブからの申請がありましたら審査を行い、ファンドの適正運用に努めるとともに、皆さんの活動の支援を行いたいと考えています。もし次年度の予定が決まりましたら事前にご相談下さい。

地区ホームページの活用についてですが、IT委員会の協力のもとWCSの項目を設けています。またロータリージャパンのWCSからは、世界中の国々から支援要請が来ているようなプロジェクトを検索出来ますので、次年度のクラブのプログラムを見つけて頂くのも良いと思います。

海外視察ですが、会員の皆様に更なる国際理解を深めて頂くために、実際に支援国に足を運んで頂き、WCSプロジェクトの視察と検証をして頂くように考えています。次年度の予定は、詳細等が決まり次第、各クラブにご案内致します。

IM単位での会議については、各IMにて要請がありましたら、世界社会奉仕についての理解を頂くために会議を催したく考えています。またクラブ単独や数クラブ合同でも喜んで行きますので、ご検討よろしくお願い致します。多くの会員様にWCS活動の理解と参加を賜りたく考え、啓発活動に努めたいと思います。

青少年交換について

(次期青少年交換委員長 豊岡 敬)

青少年交換は、短期及び長期の交換留学プログラムです。まずは長期プログラムのご説明からさせていただきます。

長期プログラムは高校生を対象としたプログラムで、大体 8 月から 7 月までの約 1 年間日本から海外への学生の派遣、そして海外から日本への外国人学生の受け入れを行います。交換学生はそれぞれの国でホームステイをしながら現地の学校に通います。このプログラムに参加して頂く各クラブには、スポンサークラブとして派遣学生のお世話を頂くのと同時にホストクラブとして受け入れ学生のお世話を頂くこととなります。

このプログラムの目的は、感性豊かな若い人たちに外国での生活を通じて外国の文化・習慣・価値観を経験させ国際感覚を身に付けさせて将来の国際相互理解と世界平和の推進の原動力になって頂くことにあります。また、交換学生達は「小さな親善大使」と呼ばれて、日本と外国との間に「友情の架け橋」を築き、派遣国において自国を紹介するという責務も負っております。我々2640 地区青少年交換委員会では本年度より近隣の 2660 地区や 2680 地区と協力関係を構築致しまして、3 地区合同の行事等も開催しております。4 月にも 3 地区合同の 2 泊 3 日のバスツアーを開催致しまして、四国・倉敷・広島・姫路等を訪問致しました。近年、国内の各地区共に交換学生数が減少しており、地区単独で行事開催を行う効果やコストの点を考えると、合同で行った方が良からうという趣旨でございます。

今回の旅行で特筆すべきことは、広島にて千羽鶴の奉納を行ったことでもあります。これは、2660 地区のアメリカ・ニューヨークから来日している Aubery さんという学生が発案したことで、皆で鶴を折り、平和への願いを込めて奉納しようということでした。各地区で 3 百数十羽ずつ役割分担することになっていたのですが、各学生ともにコツコツと自宅で折ってきた鶴が沢山あり、全部合わせると 3,000 羽になっていました。奉納式では広島西ロータリークラブに大変お世話になりました。式典で発案者の Aubery さんが代表でスピーチを行いました。素晴らしい日本語でのスピーチで感動致しました。単に日本語が上手というだけではなく、内容的にも聴く者に平和への想いが十分伝わるものでありました。彼女が訴えたことは、広島で起こった悲劇、その犠牲になった人たちの殆どが非戦闘員で、罪のない一般の市民であったこと。だからこのような悲劇は二度と起こしてはならないということでした。このスピーチを聞きまして、世界平和と国際理解という点で、我々が行っている事業が少しは前進しているという手応えを感じました。

日本語でのスピーチという点におきましては、我々の地区の交換学生も負けてはおりません。来日してから 9 ヶ月程が経過しましたが、皆かなり上達しました。我々は機会あるごとに受入れ学生に日本語でのスピーチを課しております。オリエンテーションの際には必ず日本語でのスピーチをやって頂いております。7 月に最終のオリエンテーションを行います。その時には最も感動的なスピーチが披露されるのではないかと考えております。

一方、派遣学生の方も 7 月後半から 8 月にかけて帰国してきます。いつも思うのですが、派遣前にはひ弱な印象の強かった学生さんたちが、非常に逞しくなって戻ってきます。そして、1 年間海外で生活できたことを感謝し、本当に良かったと口々に言ってくれます。クラブにおいても、月に 1 回は例会に呼び、スピーチをさせたり、様々な行事に参加して頂くことによって、クラブが活性化しますし、また若い人たちの成長に貢献していることを実感できる醍醐味があります。

近年日本全体では 350 名程の学生が全世界では 8,000 名程の学生がこのプログラムに参加しております。当地区においては、本年度はアメリカ、スウェーデン、デンマーク、ドイツ、インドネシアから 5 名の学生の受け入れを行っております。先程申し上げたように、ここ数年は派遣の希望が減少してきております。また本年度は全て大阪府下からの派遣で、和歌山からはゼロになってしまいました。それで、我々も危機感を持ち、和歌山での青少年交換の灯を消してはならないと、和歌山県や和歌山市の教育委員会にも PR に行きました。また、ご当地田辺市出身の村上エレクトのご尽力もありまして、次年度は和歌山 6 名、大阪 4 名の合計 10 名まで回復をし、相手国はアメリカ、ブラジル、スウェーデン、デンマーク、ドイツ、フランスとなっております。実は海外から日本への希望者は非常に多く、本年度も相手国決定後にも当地区と何とか交換ができないものかと随分とラブコールがありました。

実際に学生さんたちが海外に行っている期間は 1 年弱なのですが、準備から帰国までのワンサイクルは 2 年、ロータリーの年度でいうと 3 ヶ年にわたる長丁場になります。お手元の募集要項をご参照頂きたいのですが、2010-11 年度はこのような内容で募集を募ります。各クラブの地元の高校にて募集を掛けて下さい。派遣希望者に対し 10 月に選考試験を行います。2010-11 年度は十数名程度の派遣を予定しております。合格者に対して、10 月・12 月・2 月・5 月・7 月と計 5 回の派遣準備のためのオリエンテーションを開催致します。各オリエンテーションにおいては VISA 取得に必要な事務手続きの指導を始め、交換学生としての心構え、日本の文化や歴史に対する理解を深める指導や渡航準備に対する指導等を行っていきます。また毎回のオリエンテーションでは英語もしくは相手国言語によるスピーチをして頂きます。そして 8 月頃に日本を出発し帰国は翌年の 7 月あたりになります。

各クラブと地区の役割分担ですが、相手国との窓口は全て地区青少年交換委員会が対応いたしますし、又派遣学生と受け入れ学生に対するオリエンテーションも地区で行います。クラブの方では、ホストファミリーや受け入れ高校への対応、それに派遣学生と受け入れ学生へのカウンセラーをお願いすることになります。他地区では、地区委員会にて学校での募集・選考を行い、地区で決めた学生さんを各クラブに振り分けていく方法を検討されているところもあります。しかしながら、2640 地区ではロータリーの主体は各クラブにあると考えており、あくまでも青少年交換の趣旨にご賛同頂いたクラブに募集からして頂き、地区委員会はそれを側面からサポートし、足りない部分を補完するといったスタンスをとっております。

次に短期プログラムについてのご説明をさせていただきます。短期プログラムは、大体夏休みの期間を通じて数週間程度の派遣と受け入れを行います。短期プログラムではホームステイが中心で、学校に通うことはありません。ホストファミリーは、派遣を希望されるご家庭にてお願いすることになっております。まず、相手国に数週間行って頂き、相手国の派遣を希望されるご家庭にてホームステイをして頂きます。その後、相手国の交換学生と一緒に日本来て頂き、同じようにホームステイをして頂きます。派遣・受け入れは年度によって順番が変わることがあります。次年度については既に交換学生は決まっておるのですが、当地区はオランダとの交換を予定しております。期間は短いですが、目的は長期と同じで、国際親善と国際理解です。短期プログラムは、受け入れホストファミリーや受け入れ高校を探す必要がありませんので、比較的簡単に取り組むことができます。青少年交換の入門編のように考えて頂ければ結構かと思えます。ですから、過去において一度も青少年交換にトライをされたことが無いようなクラブにはお勧めです。ぜひチャレンジをしてみてください。

それから、青少年交換プログラムは、長期も短期も財団奨学生とは違ってロータリアンの子弟

の参加が可能です。そもそも、1929年にヨーロッパにて始まった青少年交換事業は、当初はロータリアンの子弟同士をお互いに預かり、若いうちに他人の飯を食べる経験を通じて逞しく育てていくといった趣旨でありました。それを、広く一般にも門戸を開いたのが今日の青少年交換であります。ぜひこの機会にご自身のお子さんの参加も含めて積極的なご参加をお願い致します。最後に危機管理についてのご説明をさせていただきます。これは最近 RI の方から強く言われていることなのですが、各地区において危機管理に対する対応を十分取るようにとされておりまして、その点が不備な地区は RI から不適格とされて青少年交換プログラムに参加出来なくなってしまう。日本国内の全ての地区は適格とされておりまして、世界中では不適格とされている地区が少なくない数存在しております。これは、交換学生からホストファミリーや、その他ボランティアからセクハラや虐待を受けたということで、裁判にまで発展したことが起因しております。実際に日本では、セクハラや虐待が発生したことは皆無であり、世界的にも極めてレアケースであります。長い歴史の中でアメリカとオーストラリアであったと聞いております。これに対応する為に、RIからは全てのボランティアから犯罪記録を提出させて、問題のない事を証明するようにとされておりまして、日本では個人情報・個人のプライバシーに係わることであり、実際問題不可能です。それで、日本では全てのボランティアにセクハラ・虐待をしないことの宣誓書を提出して頂くことでこれに代えております。また、日本のガバナー会の方で、セクハラと虐待に関する訴訟を担保する損害保険に加入をしております。青少年関係の危機管理は、決してセクハラ・虐待だけではありません。事故や犯罪に巻き込まれたり、病気や治安の問題といったものもあります。これらに対処するために、地区には危機管理委員会を組織しており、本年度は平尾パストガバナーに委員長をして頂き、私も委員会に名前を連ねております。いざ事が起こった時に、マスコミを始めとして対外的な窓口を危機管理委員会に一元化して対応をしていくことになっております。

現在懸念されることは新型インフルエンザの流行です。幸い当地区ではメキシコとの交換は行っておりませんが、今後どのような事態に推移するか予測できません。我々地区委員会としては、外務省の通達に従い対応をする所存です。ですから、外務省から渡航延期勧告や早期帰国勧告が出た場合には、その対象国との交換は取りやめるということになっております。交換学生の安全を第一に考えてプログラムを進めていく所存です。

オン・ツウ・モンリオールについて (次期オン・ツウ・モンリオール委員長 田上 雅信)

年次国際大会の主たる目的は、国際レベルにおいて、全ロータリアン、特に、次期クラブ会長、ガバナー・エレクト、RI およびロータリークラブの次期役員を鼓舞、激励し、かつ情報を与えることによって、地区レベルとクラブレベルにおけるロータリーの発展を活発に推進しようとする意欲を起こさせることである、と手続要覧に記載されています。

オン・ツウ・モンリオール！

2009～2010 年度、ロータリー世界大会は北米、カナダのモンリオールで開催されます。本日はそのモンリオールのご紹介をさせていただきます。皆さん、モンリオールと聞けば何を思い浮かべるでしょうか。そうです。1976年にオリンピックが開催されております。そこで質問です。1976年モンリオールオリンピックは夏季、冬季どちらの大会だったでしょうか。

正解は夏季大会です。一見、アメリカ大陸の北側でカナディアンロッキーなどを思い浮かべ、冬季大会、と答えたかったところですね。(ちなみにモンリオールの前の夏季オリンピックは

1972年のミュンヘンオリンピック、後は1980年、西側諸国がボイコットしたモスクワオリンピックです。) 実はモントリオールは過ごしやすい気候に恵まれ、夏のオリンピックにぴったりのところだったのです。そんなモントリオール世界大会に、是非参加しましょう。広大な国土をもつカナダの東、ケベック州最大の都市で、カナダ全体でもオンタリオ州トロントに次ぐ規模の都市です。モントリオール都市圏の人口は約350万人で静岡県の人と同じくらいです。面積は約4千km²で滋賀県程度です。

また、住民の大半はフランス系で、第一言語をフランス語としております。(多くの住民は英語も話します。) これはパリについて世界第2の規模を持つフランス語圏の街で「北米のパリ」と言われています。(ちなみに南米のパリはブエノスアイレス、中東のパリはバイルート、東洋のパリはプノンペンといわれています) そんな欧州の面影を街中に感じるモントリオール。旧市街地のフランス風街並み。モントリオール美術館やサン・ジョセフ礼拝堂、世界の女王マリア大聖堂、モントリオールノートルダム聖堂(見事なステンドグラスが有名)など、見所もたくさんあります。もちろん、モントリオールオリンピックスタジアムもあります。

カナダといえば大自然。セント・ローレンス川沿いにケベックシティーまでは、あまりにも有名な「メイプル街道」として、カエデの紅葉を楽しむ観光ルートとなっております。北にはローレンシャン山地があり、夏はキャンプ、冬はスキーでにぎわいます。また、オンタリオ州トロントの近くのナイアガラ・フォールズ市では、世界的に有名なナイアガラの滝が見られます。それから、ルーシー・モード・モンゴメリーの「赤毛のアン」の舞台になった、プリンスエドワード島のキャベンディッシュはモントリオールから飛行機で1時間弱。そんなモントリオール。日本では広島市が1998年に姉妹都市の提携をしました、ほかに韓国プサン、中国上海、英国ロンドン、もちろん仏のパリも姉妹都市になっています。

さあ、2009～2010年度R1世界大会は2010年6月20日(日)～23日(水)です。世界各地から多数のロータリアンが参加するロータリー世界大会。われわれ第2640地区もこそってモントリオール世界大会に参加しようと思います。前夜祭の第2640地区『ジャパナイト』は国際大会に参加いただいた地区会員とご家族の親睦を深め、会員皆様のご活躍に感謝し、2010年7月よりガバナーに就任されます、米田眞理子ガバナー・ノミニーのお祝いをする事としておりますので、堺フェニックスの皆様始め各クラブの多数の皆様には是非とも参加登録、よろしくお願い致します。

なお、先遣隊として、6月21日から開催される2008～2009年英国バーミンガム世界大会に田辺クラブからも数名参加します。大会会場で再会できることを楽しみにしています。その時は、よろしくお願い致します。

質疑応答

Q: DDF 45万ドルの内の30万ドルをビル・ゲイツ財団から提案のポリオの特別寄付に充てるとの話でしたが、財団奨学生の規模は縮小されますか? また当クラブでは年に1回、ロータリーカレッジという勉強会を行っています。今回は決議23-34について勉強の予定ですが、その現状についてお教え下さい。(有田RC)

A: ポリオの件ですが、ビル・ゲイツから当初提案のあった1億ドルと、国際協議会で提案のあった2億5,500万ドルの寄付について、ロータリーとしては2億ドルを集めることになりました。現在、当地区にはDDFが約455,000ドルあります。最近では財団奨学生への希望

者が減少しており、また合格者が辞退される場合があります。これまでは余れば次年度への繰越しが出来ましたが、2013年以降は出来なくなります。今、DDFから30万ドルを寄付すると、R財団からその半分を出して頂けます。従って30万ドルが45万ドルになるわけです。このことを先日の地区大会におきまして承頂きました。財団奨学生に使われる奨学金がおろそかになることはありません。むしろ今後、奨学生を増やしたいと考えています。

R Iの理事、歴代会長は決議23-34についてほとんど知りません。決議23-34を消すことをR I理事会に提案した人は、国際ポリオプラス委員長でした。決議23-34の第5項にロータリークラブとR Iの関係について定めてあります。ロータリーは各クラブに主権があり、R Iはクラブがしようとするのを禁じたり命じたりしてはならない、と書かれています。ポリオプラスのように大きな仕事をしようすると邪魔になるわけです。時には手続要覧から決議23-34が消えてしまったこともあります。日本からクレームをつけて元に戻したりしてきました。ついに2007年11月の理事会で、破棄することが承認されました。しかし日本からまたクレームをつけて、クラブ細則に掲載されました。ところが昨年11月に東京で開催されましたロータリー研究会において、R I会長・副会長・執行委員会委員長が出席され、私は最後の質疑応答の時に決議23-34の扱いについて意見しました。手続要覧には過去の歴史的文献として掲載されることになっていましたが、その時の回答はそうではありませんでした。その後、R I理事会において“歴史的文献として”という文言が削除されましたので、元に戻ったということになります。決議23-34がなぜ大事かと言いますと、ロータリーの哲学に関して解説し、ロータリーとは何か、ロータリークラブは如何あるべきか、ロータリークラブと国際ロータリーの関係は如何あるべきかを説いているからです。

(中島パストガバナー)

総 評

(西山 利昭 次期ガバナー補佐)

午前中は村上ガバナーエレクトの熱い所信表明をお聞き、午後からも委員長会議で勉強させて頂き、私もロータリーに対する熱意が湧いてまいりました。次年度は勉強をやり直して、皆様と共に頑張り悔いの無き一年にしたいと思います。

せっかく頂いたご縁ですので、大切にガバナーエレクトの方針及び考えを正しくお伝えし、各クラブが活性化するようお手伝い出来ればと考えていますので、どうぞ宜しくお願い致します。

(三村 文男 次期ガバナー補佐)

皆さんはロータリー以外の方々からロータリーは「何をしているのか」よく聞かれます。「寄付する団体」か、私のゴルフ仲間からも皮肉って、「大人の幼稚園」行くのか、ともいわれる、その言い訳と反論はまず「国際奉仕事業」の説明で解かってくれます。

ロータリーに入会して思ったことは、国際奉仕事業がなかったらロータリーの説明がつかないとおもいます。今まで海外多くの国に観光など行きました。その国の名所と国の表の良い所の見学でした。

ロータリーに入会後所属クラブがタイ・ルンピニと姉妹クラブ締結し交流が始まり、世界社会奉仕(WCS)事業でその奉仕の達成感を味わいました。

また成川ガバナー年度に中島パストガバナーをリーダーとして、歴代のパストガバナー総勢80名でインド・ムンバイ・スラムへのポリオワクチンの投与に参加しました。また他の年度に

も地区のWCS事業に参加して、その国のロータリアンとの交流により、援助を必要とする人々の生活改善と質を高めることに貢献できた達成感が、私が、今ここに居られるとっております。私はクラブが継続的に国際奉仕に取り組むことはクラブの目標が見え、活性化に繋がり、会員のクラブ退会防止につながると思っております。各クラブの事情はあると思いますが国際ロータリー2640地区が活性化するために少しでも国際奉仕の重要性を共有できたらと思っております。

今日の講評とのことですが、私の感じたことを報告させていただきます。中島パストガバナーのいつものことですが、国際奉仕について分かりやすく説明頂き、また中野委員長他各委員長さんからは地区の方針を、きめ細かく説明頂き、各クラブの委員長にはわかりやすく説明頂いたと思っております。

終わりに、この事業の大切さに「お金と時間」を気にせず、率先して取り組んだ先輩各位に感謝したいと思います。次年度テーマと、村上ガバナーエレクトの国際奉仕の重要性と「世界の人々との縁づくり」に、取り組むことを引受けてくださった委員長さん他関係の方、クラブの担当者方々に感謝します。そして私も皆様の一員として全力で取り組み、次年度事業の成功を願い、よろしくお願いして私の言葉とします。

（大澤 徳平 カウンセラー・パストガバナー）

本日の会議は非常にわかりやすく説明をされていたので、ほとんどの皆さんはご理解されたことと思っております。その上に中島パストガバナーがこの席にいらっしゃったお陰で、国際ロータリーの考え方や中身までも詳しくご説明頂きましたので、理解が深まったのではないのでしょうか。財団の奨学生はロータリアンの関係者は申込み出来ませんが、青少年交換学生へは申込み出来ます。このようなことを案外ご存知ない方もおられます。どうかお帰りになりましたら7月までの間に、手続要覧の国際奉仕関係のところを読んでみて下さい。そうしますと自分の担当が、非常に重要なクラブの中の国際担当理事になっているということを実感されると思っております。ロータリーは役が付きますと、1年間はその役を十二分に果たして頂き、後悔のない1年を過ごして頂きたいと考えます。

モントリオールは英語圏ではなくフランス語圏です。以前、ケベックRCに行かせて頂いた時は日本語を英語に、英語をフランス語に訳して、自己紹介をさせて頂いた覚えがあります。非常に紳士的な国で、素敵なロータリークラブでした。ロータリーは素晴らしい組織です。話を聞くだけではなくて、それを体験することによって実感しますので、是非とも国際大会のご参加をお勧め致します。



部門別協議会

ロータリー財団部門

カウンセラー・アドバイザー

三軒 久義 パストガバナー
 亀岡 弘 パストガバナー

SAA:

荷稻 實・鎌塚 晋作

進行:

岩本 行弘

ガバナー補佐・委員長

山本 昇三 IM6組ガバナー補佐
 岩本 行弘 ロータリー財団委員長
 吉野 惣太 財団奨学金小アドバイザー
 初田 隆生 財団奨学金小委員長
 中川 優 財団研究グループ
 交換等委員長
 高寺 壽 財団学友委員長



挨拶

(カウンセラー・パストガバナー 三軒 久義)



本日ご出席の亀岡パストガバナーは、ガバナーをされる以前に財団奨学金委員長を経験されております。後ほど詳しく総論についてお話して頂きたいと思っております。また各委員会からご説明頂いた後、皆様方からご意見を頂戴したいと考えています。

ロータリーそのものも変わってきていますが、ロータリー財団も変わりやすいところがあります。従って毎年、変わった部分を学んでいく必要がありますので、財団はよく会議が開催されます。

皆様方からは是非、お考えやご意見を出して頂いて、今後の地区の運営に反映させたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

挨拶

(次期ロータリー財団委員長 岩本 行弘)

平素はロータリー財団に格別なるご支援・ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。本日の資料は、昨年11月19日に、東京で開催されたセミナーで使った「ロータリー財団地域セミナー・ハンドブック」を用意いたしました。このハンド・ブックは、大変分かり易く、具体的に解説してありますので、いつも手元において頂き、ロータリー財団の参考書としてご活用ください。また、ロータリー財団につきましては、手続要覧第4部「ロータリー財団」に記載されておりますので、参考にしてください。

本日のプログラムですが、まずロータリー財団全般のお話をしてから、ロータリー財団国際親善奨学金、研究グループ交換、財団学友、寄付金、未来の夢計画、そして最後にまとめと、質疑応答の時間を予定しております。



ロータリー財団について

(カウンセラー・パストガバナー 亀岡 弘)

ガバナーになる以前、財団には10年ほど関与していました。それ以降も変更になる度に勉強してきましたが、最近の変更は特に激しいように感じます。財団を部分的にはご存知でも、全体を掴んでない方は意外と多くおられますので、全体像をкаいつまんでお話させていただきます。

ロータリー財団は1917年にアトランタで開催された国際大会におきまして、「全世界的な規模で慈善・教育、その他の社会奉仕の分野でより良きことをするために基金を作ろう」と提案されたことに端を発しています。1928年の国際大会で“ロータリー財団”と名づけられ、1931年に信託組織となり、1983年に非営利財団法人となりました。

ロータリー財団を構成する法人会員は国際ロータリーのみであり、ロータリー財団の正式名称は“国際ロータリーのロータリー財団”です。国際ロータリーと法的に組織は違っても、その目的・使命・活動は両者ともに一体のものです。

ロータリー財団の使命は、ロータリアンが、健康状態を改善し、教育への使命を高め、貧困を救済することを通じて、世界理解・親善・平和を達成出来るようにすることです。標語は、『世界で良いことをしよう』です。**優先事項**は、●全てのプログラムと運営を簡素化すること。●プログラムの成果も内容も、未来の夢計画に沿ったものにすること。●地区レベル、クラブレベルにおいてロータリー財団により一層参加し、ロータリー財団を自分達の財団と自覚すること。●プログラムの目標達成のための十分な資金と人材を提供すること。●未来の夢計画を支える効果的な方策を開発すること。となります。

未来の夢計画に基づく新補助金についてですが、①ロータリー財団新地区補助金：現行の地区補助金と似ていますが、多くの点で異なります。またロータリーのない国でも事業を実施出来ます。②ロータリー財団グローバル補助金：平和と紛争予防・紛争解決、疾病予防と治療、水と衛生設備、母子の健康、基本的教育と識字率向上、経済と地域社会の発展、といった6種類の重点分野に実施します。

ロータリー財団のプログラムと財団への寄付金の行方についてお話しします。プログラムは次の3種類に大きく分けることができます。①人道的プログラム（マッチング・グラント、地区補助金、ボランティア奉仕活動補助金、3-H補助金）②教育的プログラム（国際親善奨学金、世界

平和フェローシップ、研究グループ交換、大学教員のためのプログラム、ロータリー平和および紛争解決研究プログラム) ③ポリオ・プラス・プログラム、となります。寄付金も大きく分けて3種類あります。①年次寄付：寄付の基盤であり、使い道を指定することなくロータリー財団に寄付するものです。寄付して3年後に地区の年次寄付総額の50%が地区活動資金(District Designated Fund=DDF)、他方の50%が国際財団活動資金(World Fund=WF)として使われます。年次寄付の認証はポール・ハリス・フェローです。②恒久基金寄付：恒久基金寄付への認証はベネファクターです。③使途指定寄付：あらかじめ使い道を決めて寄付するもので、その代表例はポリオ・プラスです。

寄付金の行方ですが、『第1ゾーン～第4ゾーンA ロータリー財団地域セミナーハンドブック』の“ロータリー財団への寄付の行方”114ページのスキームを参照して下さい。

ポリオ・プラス・プログラムは1985年の国連の40周年に当たるその時、ロータリーは1億2,000万ドルを集めるという声明を発表し、1986年7月からスタートしました。ビル・ゲイツ財団からの訴えもあり、国際ロータリーは“ロータリーの2億ドルのチャレンジ”と銘打って、2012年6月30日までに特別寄付の募金活動を行います。

ロータリー財団への寄付について、国際ロータリー日本事務局の日本ロータリー奨学金委員会に一括20万円以上のご寄付を送金して頂ければ、税制上の優遇措置が受けられます。

簡単に話をしましたので、ご理解頂けなかったところもあるかと思いますが、ハンドブックをご一読して頂きたいと思います。

国際親善奨学金について

(次期財団奨学金小委員会アドバイザー 吉野 惣太)

ロータリー財団は1917年の国際大会において提案されてから、実際に動き出すまで30年近くかかっています。どうして動き出したかと申しますと、1947年にポール・ハリスが逝去した時の電報に「献花のかわりにロータリー財団に寄付をしてほしい。」とポール・ハリスの具体的要請の知らせがあり、それ以来寄付が集まるようになりました。その翌年から財団奨学生を派遣出来るようになりました。

国際親善奨学金の特徴はカウンセラー制度にあります。学生の留学先でロータリアンがカウンセラーとしてお世話しますので、異なる文化にもスムーズに導いてくれますし、トラブルの対応にもお手伝いして頂けます。当地区からは年間約10名の奨学生を出しています。

次年度の内容がまだはっきりとわかっていませんので、本年度の内容でお話させていただきます。当地区の親善奨学金の種類は、①1学年度、②マルチイヤー、③3ヶ月・6ヶ月の文化研修、となっています。応募資格年齢は、30歳代くらいまでとなっており、1学年度で留学される方については、特に留学先国のかなりの語学力が要求されます。ロータリー関係者やその配偶者、子または孫でないことや、クラブ退会后3年間は応募出来ない、といった条件があります。1番大切なことは“親善”を果たせることです。

毎年1月頃から募集を始めており、4月中頃までに地区内のロータリークラブに申込みを行って頂き、面接して頂いてから地区へ申し込んで頂くこととなります。その後、一般常識問題・小論文・語学・面接等の地区の選考試験を受けて頂きます。合格者数は特に決めていませんので、多くの優秀な方を選考したいと考えています。

今後、次年度の具体的な話をさせて頂く機会があると思いますが、今月の5月7日に情報が入りまして、1学年度以外の奨学金は無くなる可能性が出て来ました。この件を含め、より具体的

な内容を、次回9月の財団委員長会議でお伝え致します。

ロータリーは質の高い奨学生を海外に送り出し、草の根的ではありますが、良き想いの人々同士が繋がることで、世界平和に貢献しようと考えています。当地区からも良き人材を送り出したいと考えておりますので、皆様方にもご協力よろしくお願い致します。

国際親善奨学金について

(次期ロータリー財団委員長 岩本 行弘)

皆様方のクラブから奨学生を推薦して頂くわけですが、それに伴う金銭的な負担はございません。奨学生は地区の選考試験に合格されますと、オリエンテーションを受けて頂くこととなりますので、カウンセラーのロータリアンも一緒にご出席下さいますようお願い致します。逆に海外で選考されて日本の大学・大学院・語学学校で学びたいという奨学生もおります。そのリストが送られてきて、3ヶ月間の文化研修が3名、6ヶ月間の文化研修も3名、1学年度が1名来る予定になっています。村上ガバナーから皆様方にカウンセラーをお願いすることになると思います。但し、ホームスティはありませんので、その節はよろしくお願い致します。また国際親善奨学生は、奨学金の限度を越えた費用は自己負担になっていますので、金銭的な負担もございません。

財団研究グループ交換について

(次期財団研究グループ交換小委員会副委員長 山本 唯二)

当地区では2年に1回、財団研究グループ交換を行っています。本年度は次年度に向けての準備を行い、次年度は交換を実施し、そのGSE相手地区は北米の7150地区になりました。相手地区の地区大会に合わせて訪問することになっていますので、スケジュールを逆算し、団員の募集を行いました。本年度は多くの団員のご推薦を頂き、団長以下4名の団員を決定しました。出発は9月19日で、相手国で4週間滞在する予定です。受け入れは当地区の地区大会に合わせて来ることとなりますので、来年の3月25日に関西空港着となっており、4週間滞在することとなります。その担当をして頂くのは、今度は奇数のIMとなっています。また高野山へ行きたいとの要望がいつもありますので、毎回、高野山ロータリークラブさんには大変お世話になっております。滞在中はホームスティが主となっています。そして帰国後は帰国報告会や報告書の作成などの作業があります。

次年度はいろいろとご協力をお願いするかと思いますが、よろしくお願い致します。



財団学友について

(次期財団学友小委員会委員 川端 健夫)

まず運営方針についてですが、当委員会は財団学友会を支援・協力するのが主な活動です。財団学友会とは、元財団国際親善奨学生、元GSE参加者により構成される組織で、財団国際親善奨学生並びにGSE団員は帰国後、自動的に財団学友会会員となります。

財団学友は将来有望な人達であり、ロータリーの良き理解者でもあります。ロータリーにとっても学友にとっても、お互いの関係は大きな財産です。また学友は将来のロータリアン候補者でもあり、温かく見守っていきたいと思います。

学友委員会は、財団学友とロータリアンの良好な関係を維持するとともに、学友会の発展拡充を支援していきます。またスポンサークラブと学友の関係維持にも協力していきます。

事業計画は以下の通りです。

- ①帰国報告会の開催：毎年9月に開催されるクラブ財団委員長会議で、帰国奨学生による『帰国報告会』を開催します。
- ②財団国際親善奨学生のオリエンテーションに協力：委員による学友の義務等のレクチャー並びに学友による体験報告及び相談を行います。
- ③帰国奨学生が義務付けられている講演等の完了に協力：各クラブより要請のある卓話の斡旋・調整他を行います。
- ④IM等での会議に出席：学友委員会・学友会を理解して頂くための活動等を説明します。
- ⑤学友を地区大会等に招待：学友に地区大会等の会議に参加を要請します。
- ⑥学友会の定期的開催に協力：地区大会時に学友同窓会の開催支援、その他学友懇親会等の開催を支援します。また学友会の組織拡充支援を行い、ロータリーとの関係を維持強化し、将来のロータリー会員候補への道筋を保ちます。
- ⑦冊子「がくゆう」の発行：留学等の報告書、学友名簿など学友記録を最新のものに編集して年度末に発行します。

その後、推薦クラブは学友と連絡を取り合ってください、変更等があった場合にはご連絡下さいますよう、よろしくお願い致します。

財団寄付について

(次期ロータリー財団委員長 岩本 行弘)

ロータリー財団への寄付金はなぜ必要なのでしょうか。答は簡単です。ロータリー財団への寄付（財源）がなければ、国際ロータリーの色々な奉仕活動は何も出来ないからであります。

私達は、7月と1月の2度に分けて、国際ロータリーに人頭分担金48ドルを支払っております。これは国際ロータリーの管理・運営するための会員の負担額で、国際ロータリーの職員の費用、出版物、維持管理費を賄っております。

そして色々な奉仕活動の補助金は、全てロータリー財団から出ているのです。

寄付金は大きく分けて、3種類あります。①年次寄付 ②恒久基金 ③使途指定寄付の3つです。それらの違いを意識して寄付される人は意外と少ないように思います。寄付される人の意思に沿った寄付金にして頂くために、会員の皆様によくご説明頂きたいと思っております。

2001年の規定審議会で、ロータリー財団では、毎年1人当たりの寄付額を100ドル（年次寄付）にするという決議が採択されました。これは、当地区の目標額の半分です。しかし、ロータリー加盟国や地域によって、経済環境・社会事情はそれぞれ大きく違って、同じ100ド

ルに対する価値観も異なります。寄付金の多い地区も、少ない地区も平等にロータリー奉仕活動ができるように、国際活動資金（WF）が存在します。例えば、寄付金が全くない地区でも、GSEの交換費用はWFから出ますので、GSEプログラムに参加できます。またWFからマッチング・グラント補助金を受けることによって、平和プロジェクトを提唱して実行出来るようになります。

私達 2640 地区は、他の地区より多くロータリー財団寄付をしておりますが、それによって国際ロータリーの奉仕活動の推進に大きく貢献していることが、お分かり頂けたのではないかと思います。

●ポリオ・プラスの2億ドルチャレンジ寄付について

ポリオ撲滅運動は最終段階に入っております。あと数カ国のポリオを撲滅させると、世界的な偉業が達成されるのです。そこで、ビル・ゲイツ財団からの1億ドルの支援を受けて、2008年7月から、3年間の最初のチャレンジが始まりましたが、今年1月の国際協議会において、さらにビル・ゲイツ財団より、2億5,500万ドルの追加寄付が約束されました。それに応じて、ロータリーで2億ドル（1億ドル2回分）の寄付をすることになりました。

1人当たり合計200ドル程度の寄付が必要となったのです。まだ、最初の寄付金を分割で始まったばかりですので、さらにご負担をお願いするのは大変心苦しく、苦慮しておりました。3月に「ロータリーの2億ドルのチャレンジ委員長」から、DDFを活用してほしい旨の要請書がきましたので、DDFから拠出することを検討して、先日の地区大会第1日目の会長・幹事会の席上で、中島PGより説明があり、30万ドル拠出することで了承されました。現在、特別に50%のマッチング資金が出るようになっておりますので、45万ドルの有効活用ができました。したがって、当地区では次年度からのポリオ・プラスへの特別寄付キャンペーンは、しないことになりました。

●国際親善奨学生の受け入れについて

国際親善奨学生は、派遣だけではなく、逆に他の国から日本に来て、勉強する奨学生もおります。

3ヶ月文化研修生	台湾	2名、	米国	1名	（和歌山外国語学校）
6ヶ月文化研修生	台湾	1名、	韓国	1名	スイス 1名
1学年度	韓国	1名	（大阪芸術大学）		

合計7名の奨学生のホスト・クラブをお願いすることになりますが、そのときはご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

●2009-10年度のクラブにおける取り組み方

■財団奨学金

◎2010-11年度国際親善奨学生のカウンセラー（顧問ロータリアン）は、5回のオリエンテーションに奨学生と一緒に出席する。帰国するまでカウンセラーを務める。

◎2011-12年度国際親善奨学生の募集と推薦に協力。

◎受入奨学生のホスト・クラブとホスト・カウンセラーを引き受け。

■研究グループ交換

◎2009-10年度のGSE 団員派遣とニューヨーク州（7150地区）からの受入に協力。

■財団学友

◎クラブから推薦した財団学友との連絡を密にして、連絡先を把握する。

■ 寄付金

◎年次寄付、恒久基金、使途指定寄付の違いをよく理解して、寄付者の意向に沿った寄付をお願いします。

■ マッチング・グラント

◎海外のプロジェクトを支援して、マッチング・グラントを活用する場合、内容をよく検討して（人道的、緊急、RIの方針に沿ったもの）、綿密な資金計画を作成して、出来るだけ早く申請書を提出して承認を受ける。

WFのマッチング・グラントの枠が無くなれば、期の途中でも終了する。

以上のようなことを次年度の皆様方の計画書に入れて頂きたいと思います。

質疑応答

（次期ロータリー財団委員長 岩本 行弘）

Q：ロータリー財団はサブプライム問題でかなり損失を受けたと聞いていますが、どのくらいの金額を運用して、どのくらいの損失が出ているのか教えてください。

A：具体的な数字は、次の報告書に掲載されますので現時点ではわかりません。

Q：なぜ“ポリオ・プラス”という言葉を使っているのか分からなかったのですが、最近は意味合いが変わって来てるように思います。ハンドブックP77の「現在は、世界的なポリオ撲滅運動がもたらした遺産のことを指しています。」とありますが、“遺産”とは具体的にどういう意味ですか？

A：当時はポリオ以外に5つをプラスしてポリオ・プラスと呼んでいましたが、現在は実際にはポリオしか指していないと思います。

講 評

（三軒 久義 カウンセラー・パストガバナー）

最近はたくさん寄付を集めて、いろんな奉仕団体に負けないようにしようというのが、本部の意向になってきているように感じます。当地区はその方針に反対しています。ロータリー財団はその手段に過ぎないのに、どうも目的化しているように思います。手段であるということを書いて置いて、ロータリー財団の活動にご協力頂ければ幸いです。

難しい言葉や、ややこしい細かな点もありますので、何なりとお聞き頂きたいと思います。



部門別協議会

米 山 部 門

カウンセラー・アドバイザー

水田 博史 パストガバナー
 松下 光春 カウンセラー補佐
 河合 利晴 アドバイザー

ガバナー補佐・委員長

小門 薫子 IM3組ガバナー補佐
 山本 久 IM8組ガバナー補佐
 浦口 英尚 米山記念奨学委員長

SAA :

古久保和彦・矢野 好洋

進行 :

浦口 英尚



挨拶

(カウンセラー・パストガバナー 水田 博史)

「米山奨学事業」について

去る4月19日にカウンセラーと奨学生とのオリエンテーションがありました。お世話頂くクラブには、どうかお力添えをよろしくお願い致します。米山奨学会の財源は全て、皆様方ロータリアンからご寄付頂いているものです。本当に有難いですし、大きな力だと思います。しかし会員の減少に伴い寄付金も減少しており、現在の奨学生は約800名です。厳しい状況の中ではありますが、村上ガバナーエレクトは寄付の目標額を2万円とされていますので、強制は出来ませんが、今後ともご支援をよろしくお願い致します。

世話クラブになられていないクラブにおきましても、米山奨学生を見守って頂きたいと思ひますし、ご寄付も併せてお願い致します。世話クラブでは、是非、毎月1回は例会に招いて下さい。奨学金の渡し方にはいろいろな意見はあるかと思ひますが、その時に奨学金を渡して頂ければ良いと思ひます。

ただ単にお金だけのことではなく、米山奨学金の特徴は、世話クラブやカウンセラーがあり、奨学生の状況や今後の社会での貢献等について、心の問題まで考えているところだと思ひます。皆様方のクラブでの奉仕活動にも是非参加をするように促して下さい。それによってロータリーへの理解を深めてもらえますし、交流も深まると考えます。また奨学生の祖国と日本との交流の架け橋にもなって頂けると思ひますし、国際交流に繋がると考えています。どうぞよろしくお願い致します。



米山奨学事業現況について

(次期米山カウンセラー補佐 松下 光春)

各クラブの皆様方には、ご支援ご協力を賜っており、厚く御礼申し上げます。

昨今の会員減少と不安定な経済情勢により、最近では寄付金も減少してきています。ピーク時には20億円を越えていた寄付金が、現在では14億5,000万円となっています。この金額は奨学生に対する奨学金として、全額使われています。米山奨学会の基本財産は50億円、特別積立金が50億円近くありました。過去には1,100～1,000名の奨学生を支援していましたが、特別積立金を取り崩さずに、収入に見合った人数ということで現在は約800名となっています。当地区におきましては1億円を越えていた時もありましたが、現在は5,000万円余りになっています。このことに伴って毎年、1名ずつ奨学生も減っています。本年度は当地区で新しく採用した人は22名、継続者が6名です。

選考試験につきましては、当地区独自の方法で行っています。従来は面接試験のみでしたが、現在は電話によりやりとりや簡単な筆記試験、そして面接を行っています。全国的に見ても当地区の選考方法は注目されており、最近、大学推薦制度が定着してきており、優秀な学生を選考することが出来ています。

奨学生に中国の人が多いというご批判を受けることもあります。海外から約13万人が日本に来ており、そのうち中国人が65%を占めているというのが現状です。当地区におきましても65%が中国人で90%以上が東南アジアを含めた地域から来ています。したがって英語圏からはほとんど来られていないこととなります。採用の際にはなるべく偏らないように心がけてはいます。

また米山奨学会から、各クラブにいろんな資料が送られてきます。どうかそれらの情報を会員様にお伝え下さいますよう、よろしくお願い致します。

この7月から地区内の大学を回らせて頂き、米山奨学会の方針や現況をお伝えし、大学とのコミュニケーションを図っていきたいと考えています。

必ず守って頂きたいことは、クラブの例会に出席して奨学金を受け取るということです。その他にもいろいろな制約があり、それらに反した時には、本年度からは奨学金の打ち切りも含めて特に厳しく指導してまいりますので、ご理解をよろしくお願い致します。

次年度活動方針について

(次期米山委員長 浦口 英尚)

1952年に東京RCが米山梅吉氏の偉業を記念して始めた「米山基金」が、1967年に「財団法人ロータリー米山記念奨学会」として、全日本の地区共同事業として発展し、50年以上を経過しました。この間に世界104カ国約14,500名の奨学生をお世話し、更に今年度800名が増える日本最大の民間奨学団体となっています。数年来、制度の見直し検討が進められ、2006年度より新しい制度に移行しました。先輩達が築き国際的にも高く評価されてきた米山奨学事業を更に発展させて行き、世界平和実現の一助になり、日本がアジアのリーダーであるべく努力したいと考えています。

- ①地区の米山記念奨学委員会の組織は、ガバナーがトップに立った組織であることを明示した組織図を作成します。全クラブが目標額を達成して、地区目標を達成したいと考えます。
- ②委員会は「学友担当」・「寄付増進担当」・「奨学生選考」の3つの担当にわかれて、それぞれに計画立案を進めて頂きますが、実施に当たっては全委員が協力して行うものとします。

- ③各クラブの状況を最もよく把握されているガバナー補佐の方々に、担当クラブの米山奨学事業の理解促進と寄付増進の働きをお願いします。
- ④奨学生・学友・クラブ米山カウンセラーが参加して、本年は米山記念館を見学に行き、米山奨学金を理解します。(9月中実施の予定)
- ⑤10月米山月間には世話クラブにて米山奨学生の卓話を実施致します。世話クラブではないクラブへの卓話もご希望により実施致します。
- ⑥奨学生・学友とのコミュニケーションを計り、米山学友会を支援致します。
- ⑦地区大会に米山奨学生に参加して頂き、事業内容のポスターを掲示します。
- ⑧社会貢献活動を引き続き実施し、地域の中学生・高校生との交流を図ります。
- ⑨奨学生選考に関しては推薦大学を全て訪問し、一國に偏らない推薦をお願いし、大学推薦ならびに選考に関して、厳しい検討を重ねていきたいと思ひます。

ロータリアン1人ひとりが、米山奨学事業は「将来、日本と世界を結ぶ架け橋となって国際社会で活躍し、ロータリーの良き理解者となる人材の育成である」、更にこれが世界平和に繋がる事業であることを確信し、協力して下さることをお願い致します。

私は奨学生に対して、最低月2回はクラブに行くように言っています。そして、入り口にでも立って、会員の一人ひとりにご挨拶するように勧めています。従ってお世話クラブでは、そのようなご指導もよろしくお願い致します。また態度の悪い奨学生については、クラブからお申し出頂き、奨学金の打ち切りを行います。これによって奨学生の質も向上しているかと思ひます。社会貢献活動についてですが、クラブでの独自の事業等にも呼んで頂きたいと思ひます。



＜岬高校・ワークショップビデオ鑑賞＞

この事業は他地区にはない素晴らしい事業だと考えております。今後も継続して行っていきたく思ひますし、有田においても新規に取り組む予定にしています。この事業についても各クラブの皆様にご紹介して頂きたいと思ひます。



米山学友活動について

(次年度米山アドバイザー 河合 利晴)

私達は一生懸命行っているつもりでも文句を言われることがあります。「奨学金をばらまいているのか」、「なぜ中国人ばかりなのか」等ですが、その場で説明させて頂くようにしています。

奨学生に中国人が多い理由は、中国人の受験者数が多いからです。それはそもそも中国からの留学生が多いということです。次に韓国・台湾となっています。

ここ3年くらいで、米山は大いに変わってきたように思います。昨年からは選考試験に電話審査を実施しています。これだけでも大体はわかります。また日本語がわからないと世話クラブにご苦勞をかけますので、日本語による筆記試験を行っています。その中に「あなたはロータリークラブと協力して、社会貢献活動が出来ますか？」という質問があります。原因はいろいろあるかと思いますが、あまり参加していない奨学生には地道に指導しています。

今後も米山の活動は進化していくと思います。先ほどのワークショップは今までになかったことですし、通訳活動等も行っています。ワークショップによって、学校の受験率が上がったのも1つの話題になりました。なかなか友達がなくて寂しい思いをしている奨学生もいますので、積極的に付き合ってください。

質疑応答

Q：最近の米山奨学会はクラブにとって馴染みが薄いように感じます。学友会の動きなどをもっと知って頂くと良いのではないかと思います。また選考方法もよく知られていないように思います。資料として、世話クラブのお名前を届けて頂きたいと思います。 (堺RC)

A：委員会で、どのような形で開示させて頂くかを検討したいと思います。

(浦口次期米山委員長)

Q：以前、「奨学生は自国に帰って、日本との架け橋になって欲しい」というように聞いていましたが、最近の奨学生は日本に残って仕事をする人が多いように思います。これについてどのようにお考えでしょうか。 (和泉RC)

A：現在までに約14,500人が世界に旅立たれましたが、2年ほど前ですが消息がわかっていますのは40%台です。就職について、日本で就職を希望している奨学生は多くいますが、現在の経済状況でうまくいっていないのが実状です。最近では母国に帰って、日本語の先生をされている方が多くなってきました。日本に残っている方は約20%だと思います。最近では特に奨学生には連絡を密に取り合うように指導していますので、今後は消息もかなりわかってくるものと考えています。 (松下次年度米山カウンセラー補佐)

Q：当地区では現在28名の奨学生がおられるとのことでしたが、和歌山・大阪方面でそれぞれ何名でしょうか？

A：和歌山方面では現在、和歌山大学と県立医科大学とで5、6名で、残りは大阪方面となっています。 (松下次年度カウンセラー補佐)

●
<DVD「素晴らしい仲間」鑑賞>
●

Q：世話クラブでないクラブがいろいろなプログラムに参加したり、奨学生と交流する機会を設けて頂くことは出来ますか？
（藤井寺しゅらRC）

A：現在は世話クラブ以外では、奨学生と交流の機会は全くありません。今後は検討してみたいと思います。
（浦口次期米山委員長）

Q：和歌山には4校しか対象校がないとのことですが、学校の数または留学生の数のどちらで奨学生の数を決めているのでしょうか？またどのような条件をクリアすれば良いのでしょうか？
（和歌山アゼリアRC）

A：留学生の数によって配分も決めています。また大学からの推薦がなければ試験を受けることが出来ません。

総 評

（水田 博史 カウンセラー・ガバナー補佐）

「米山とロータリー財団はお金集め」ということを耳にすることがありますが、これは誤解があると思います。その目的と趣旨をロータリアンの皆さんによく理解をして頂くことが大切です。クラブ委員長の皆さんには、どうかそのあたりをよろしくお願い致します。

（小門 薫子 次年度ガバナー補佐）

米山のカウンセラーを2回させて頂きました。世話クラブやカウンセラーを受けると、皆様からの寄付がどのように使われているか身近に感じる事によって、更に米山のことが理解出来ると思います。どうか是非、すすんで引き受けて頂けるように、よろしくお願い致します。

（山本 久 次年度ガバナー補佐）

以前の経験からですが、カウンセラーになったからには、奨学生の個人的な面倒もみる必要があると思います。資金次第で採用の人数も増えるわけですから、世話クラブになっていないクラブやカウンセラーになられていない方々におかれましても、ご寄付をよろしくお願いしたいと思います。



全体会議 部門別協議会報告と講評



司会／古谷典子：

ただ今から午後の部の全体会議を開催させていただきます。それでは順次、部門別協議の会長部門の方から進めさせていただきます。まず初めに会長部門のカウンセラーをして頂きました平尾パストガバナーからよろしくお願ひ致します。

平尾パストガバナー：



まず、会長としての心得①として小島パストガバナーが講演致しました。例会の充実について、マンネリ化しているクラブがあれば、特にクラブの独自性を出して、何とか変革して欲しい、とお願ひ致しました。

次に、私が前田ガバナー年度地区協議会の会長部門に出席した時に、前田ガバナーがおっしゃりました「リーダーたるものは度量と、勇気を持って、迷い無くご自分の思った道を進んで下さい。」というお話をさせて頂きました。

豊澤次期クラブ拡大委員長からは、「新しいクラブを作ることと一緒に考えて下さい。またクラブにも拡大委員会をお作り頂きたい。」という話がありました。

次に村上ガバナーエレクトから、ポリオの特別寄付に関するDDFのお話がありました。その後、地区協議事項を説明頂き、会長エレクトの承認を得ました。

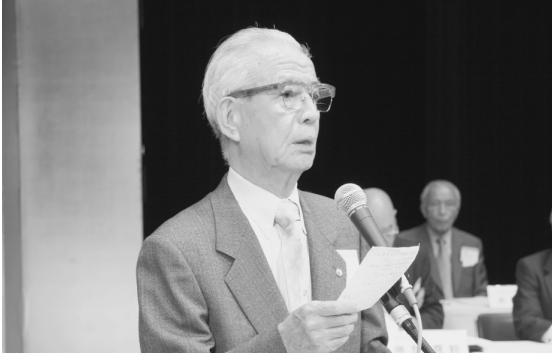
質問では、米山奨学生の選考についての質問があり、米田ガバナーノミニーから現地採用を検討している旨の説明がありました。

最後に坂口、山田両次年度ガバナー補佐の講評を頂き終了致しました。

古谷：

ありがとうございました。続きまして幹事部門より、中村パストガバナーによるしくお願い致します。

中村パストガバナー：



はじめに月山カウンセラーから、詳細にわたってクラブ幹事のやるべきことを全て説明して頂きました。特に強調されたことは、「事務的なことではあるけれど、それを心得て行わないと時に不備な点が出てくるので、最低、幹事要覧に載っているようなことは熟読して下さい。」ということでした。細部にわたりお話頂きましたので、皆さん納得されたと思います。

資料の27ページに“クラブ幹事とは！”について、箇条書きで記しておきました。幹事はクラブの肝心・要で、「幹事はクラブの情報の交差点である」ということを申し上げました。また次年度のテーマについて、若干ガバナーエレクトと違った解釈の点も申し上げました。決議 23-34 の5項に相当する“R1といえども、クラブの自主性を侵すことは出来ない。”という言葉、次年度のテーマに適用して頂きたいと思えます。

上野山次期情報・規定アドバイザーからは、さらに細かくクラブ幹事としての役割について、また規定審議会で議論されたことの情報も吸収するようにと、ご説明がありました。

西尾次期情報・規定委員長からは次年度のロータリー情報規定委員会の活動方針、特に「2010年規定審議会案件の整理検

討」についての説明をして頂きました。現在、地区から2件の案件を制定案として出していますが、その1点についてR1からクレームがつかれました。それを検討した上で、クレームを拒否しました。そのことについて、私から説明申し上げました。

例年、幹事部門は質問が多く出るのですが、次年度の各クラブの幹事さんは大変穏やかですので、おそらく次年度は安泰だろうという自信を深めました。

古谷：

ありがとうございました。続いてクラブ奉仕部門から成川パストガバナー、よろしくお願い致します。

成川パストガバナー：



開会にあたり私から、地区協議会の目的や責務、そして協議会の終了まで席を立たないように、ということの話させて頂きました。そして委員長さんの就任前と就任後の責務や会員増強の支援源について話を致しました。

続きまして小林次期会員増強アドバイザーより、地区の現況を詳しくお話頂きました。今年度末で1クラブが脱会されるのにはショックを受けています。

倉次期会員増強委員長からは、会員増強のあり方について説明とお願いがありました。

次に私が担当させて頂きましたワークショップでは、前もってアンケートをさせて頂いておりましたので、それについて発表致しました。また各クラブの現況について、そ

れそれぞれご意見も頂きました。その後、事例研究ということで、テーブル別に意見交換を行って頂き、それぞれ発表して頂きました。

“「本当に裕福な人とは何か？知りたいのならば、どれだけのお金を持っているのかではなく、どれだけの友人を持っているのかを考えるべきだ。」という定義によると、ロータリアンは世界中で最も裕福な人々ではないでしょうか。32,000のロータリークラブに所属する120万人の友人が世界中に存在しているのですから。”

古谷：

ありがとうございました。続きましてクラブ奉仕部門より平岡パストガバナー、よろしくお願い致します。

平岡パストガバナー：



雑誌・広報委員会ならびにIT委員会を担当させて頂きました。

まず河合次期雑誌・広報委員長よりご説明頂き、次に大村次期IT委員長にお話して頂きました。手続要覧によると5つの常任委員会の1つになっており、重要な部門になっていると思います。広報活動を行うには各クラブや地区の活動を充実させなければ、広報しても意味がありません。広報活動を行うことによって、クラブ内の活力を高めることが出来ると思います。

我々の1番大きな悩みは会員増強です。今回の会議に出席させて頂き、広報活動やITを充実させていくことによって、新たな会員層を発掘出来るのではないか、とい

う印象を持ちました。ロータリーはもう若い人達の時代ではないか、と感じています。当地区では、まだまだITを利用される人のパーセントは低いですが、各クラブからの支援の要望等にも取り組まれるとのことです。

古谷：

ありがとうございました。続きまして職業奉仕部門より勝野ガバナー、よろしくお願いします。

勝野ガバナー：



まず北岡次期職業奉仕委員長より、次年度活動方針・アンケート結果報告がありました。そしてIM別に討論会を行い、角谷次期職業奉仕アドバイザー、松生次期ガバナー補佐より講評を頂きました。

職業奉仕は非常に大切なもので、本年度も最も強調している事項の1つです。実践的な側面を強くして、各ロータリアンの職業上の問題について語り合う場を持たないのか、またもっと進んだ異業種交流の場があっても良いのではないかと、という具体的な行動についても考えて頂きたいということです。

皆さん、「四つのテスト」を重んじられており、英語版を読み直して考えてみようということでした。統一した和訳を地区から提出してほしいという要望がありました。また地区から職業奉仕についてのスピーカー派遣の要望もございました。

世のため、人のために活動することは素晴らしいことと思いますが、そのためには

まず、自分の職業をしっかりと確立しておかなければなりません。その職業が社会で正しく評価される職業であり、尊敬される職業であることが根本になると思います。職業奉仕で大切なことは、一言で言えば“信用”です。そして“恥を知る”ことです。以前は日本人として当然持っていたものでしたが、昨今においては忘れてしまっています。今後とも、職業奉仕の大切さを浸透させていく努力を続けていかなければならないと思います。

1番良い職業奉仕は、クラブの例会等において自分の職業体験を話すことであり、有意義なものになると考えています。

古谷：

ありがとうございました。続きまして社会奉仕部門から前窪パストガバナー、よろしくお願い致します。

前窪パストガバナー：



まず前田パストガバナーから、決議 23-34 についてお話がありました。2人のパストガバナーからは、手続要覧の社会奉仕に関する部分を熟読して下さい、と話をしました。それに則って、各クラブの社会奉仕を進めて頂きたいと要望致しました。社会奉仕が無ければ広報活動が出来ませんので、ロータリーの1つの根幹であるということをご認識下さい。地域社会にどれだけ認めて頂けるか、ということも社会奉仕にかかっています。

谷脇次期社会奉仕委員長より、委員会の方針を説明して頂きました。特に次年度は

地震問題ならびに防災対策について取り組むことになっています。

質疑応答では、“ロータリー 100 年の森林”についてや、環境問題に関する質問がありました。

防災は“安全”と“安心”と言えると思いますので、そこを上手く捉えて進めて頂きたいと思います。

古谷：

ありがとうございました。引き続き新世代部門から平原パストガバナー、よろしくお願い致します。

平原パストガバナー：



まず丸山次期青少年・ライラ委員長から説明がありました。例年のゴールデンウィークから3月に開催時期が変更したこと、場所の変更についての話がありました。

中西次期ローターアクト委員長からは、地区のWCSとの連携を考えてはどうかという話がありました。また17年間、新しいクラブが出来ていけませんので、和歌山南部で作りたいということでした。3月13・14日、全国ローターアクト研修会が愛知で開催されます。これは理解を深める上で素晴らしい会議ですので、多くのご参加をお願いします。

竈インターアクト委員長からは、毎年末に海外研修を行います。新型インフルエンザの関係で思案中との話がありました。

青少年は我々の未来であり宝物ですから、“しっかりと自分の意見を言える”、“人の意見をしっかりと聞ける”青少年を育てる

ための先輩方の長年の努力を継承していこうではありませんか。困難なこともありますが、工夫をして、知恵を出し合って、身の丈に合った活動を続けていこう、という結論でした。

古谷：

ありがとうございました。次に国際奉仕部門より中島パストガバナー、よろしくお願い致します。

中島パストガバナー：



国際奉仕部門には2つの非常に優れたプログラムがあり、世界社会奉仕と青少年交換です。皆様方のクラブでは国際奉仕委員会から国際奉仕の機会を提供致しますので、積極的に乗って頂きたいと思います。青少年交換は1年間と短期とありますが、1年間外国へ行くと本当に成長します。このような機会を是非、皆様方の地域社会の若者に与えて頂きたいと思います。このプログラムはロータリアンの子どもさんでも行くことが出来ます。

世界社会奉仕は特にアジア地域で、非常に困っている方々に手を差し伸べるプロジェクトを行っています。次年度はインドネシアへ行く計画を立てています。実際に現地に行って、ニーズを見て手を差し伸べ、現地の人々の喜ぶ顔を見ると感動しますし、帰ってからも話をして頂き、感動を分かち合っ頂きたいと思います。

本日はここに各クラブの理事会のメンバーがおられます。国際奉仕担当の理事からそのような提案がありましたら、積極的に支

援して頂きたいと思います。

古谷：

ありがとうございました。次にロータリー財団部門より三軒パストガバナー、よろしくお願い致します。

三軒パストガバナー：



次年度よりきっちりしたロータリー財団委員会にしたいということで、岩本次期財団委員長が指名されました。ロータリー財団は年度がいろいろ出てきますので、ややこしく思われがちです。

まず亀岡パストガバナーよりロータリー財団について全体像をお話頂きました。しかしロータリー財団も財政的に危機に陥っていますので、現行のプログラムがこの先、行われるかは疑問です。すでに4年後には“未来の夢計画”ということで、新しいプログラムに移行されることになっています。それについての説明をして頂きました。

吉野財団奨学金小委員会アドバイザーより、国際親善奨学金についてお話頂きました。

財団研究グループ交換についてですが、将来、職業研修グループとなります。山本次期財団研究グループ交換小委員会副委員長より説明がありました。次年度は交換を実施し、相手はニューヨーク近くの7150地区になります。団長以下、団員は全員女性です。来年の当地区の地区大会に合わせて、こちらにも来られます。その際は、奇数のIMが受け入れの担当になっていますので、ご協力よろしくお願い致します。

財団学友については、川端次期財団学友小委員会委員よりご説明があり、学友の活動を今後ますます活発にしたいとお話がありました。

財団の寄付金の収支についてのご質問を頂きました。昨年度まではプラスでしたが、今年度は来年の1月にならないとわかりませんが、おそらくマイナスになると思われます。またポリオ・プラスのプラスの意味合いについての質問もございました。

クラブ財団委員長会議を9月5日に開催しますので、その時にはもっと詳しくディスカッションしたいと考えております。

古谷：

ありがとうございます。続いて米山部門より水田パストガバナー、よろしくお願い致します。

水田パストガバナー：



松下次年度米山カウンセラー補佐より米山奨学事業の現況について説明して頂き、浦口次年度米山委員長から次年度の活動方針のお話をして頂きました。今年は高校生と米山奨学生との交流が活発に行われたことについて報告されました。また学友会の活動を活発化するという事で具体的に動いていますので、また皆様方のご協力もよろしくお願い致します。

質疑応答では、「奨学生との交流を深めるには、どうすれば良いか？」という質問がありました。世話クラブの方ではなかったのですが、前向きなお考えで非常にありがたく感じました。

米山の趣旨について、もっとロータリアンに理解を深めて頂くための啓発活動が必要と思っています。昨今は会員の減少もあり、寄付金の関係で米山奨学生も減らさざるを得ません。前向きに取り組んでいきたいと考えていますので、どうぞよろしくご協力をお願い申し上げます。

古谷：

では会議の締めくくりと致しまして、講評をお願いしたいと思います。まず小島パストガバナー、よろしくお願い致します。

小島パストガバナー：



どうぞ皆さん、ロータリーはクラブ、会員さんが1番上にあります。皆さんが、どうすれば良い方向に行くのかを考えて頂いて、次年度のクラブの活動方針を決めて頂くことが重要と思います。20数年間、RIが考えていることは同じことです。次年度のテーマの通り、まさに皆様方の肩にかかっていますので、良いクラブを作って頂きたいと思います。

古谷：

ありがとうございました。続いて月山パストガバナーにお願い致します。

月山パストガバナー：



幹事部門のカウンセラーをさせて頂きました。幹事はクラブの運命を左右するくらい大切だと考えています。昔は年に2回、幹事の教育が行われましたし、また幹事だけは何年も続けてされた方がおられました。どうも最近の幹事は事務員任せになっているように感じますので、危惧しています。全ての責任は幹事が負うものをご認識下さい。

皆さん、帰られましたら各クラブでクラブ協議会を開催して頂き、本日のご報告をして頂きたいと思います。

古谷：

ありがとうございました。続きまして前田パストガバナー、お願い致します。

前田パストガバナー：



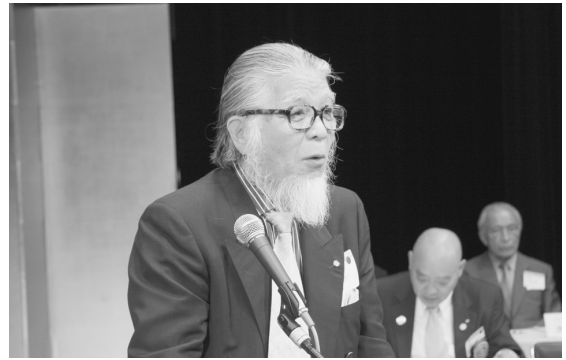
部門別協議会では、社会奉仕部門に加えて頂きましたが、非常に熱心に、時間いっぱい実りのある会合になりました。本日は天候にも恵まれ、幸先の良い次年度へのスタートがきれることと思います。しかし世界経済は非常に混迷しておりますが、ロータリーとして当地区の次年度の方針“歴史

に学び、変革と進歩を”を心として、乗り越えていきたいと思う次第です。

古谷：

ありがとうございました。続きまして大澤パストガバナーにお願い致します。

大澤パストガバナー：



まもなくこの勉強会も終了しますが、お車でおいでの皆様は、帰りの高速道路はどんな状況か、とお考えのことと思います。本日はこの後、ガバナーエレクトが思いやりの心で懇親会の企画をされています。高速道路で混雑に巻き込まれるよりは、ここでゆっくりと皆さんで話をして頂きたいということです。

本日は、お疲れ様でした。

古谷：

ありがとうございました。つづきまして亀岡パストガバナー、お願い致します。

亀岡パストガバナー：



お亡くなりになりました榎本パストガバナーが、田辺で会合をされた時に、ガーデンホテル・ハナヨへ行かせて頂きました。

当時は財団奨学金委員長をしておりまして、本日も財団部門の担当で、そこへ行かせて頂き非常に懐かしく感じました。

本日の会議、当初は幹事部門の担当と言われてましたので、構想を練っていました。扇を思い浮かべて頂きたいと思いますが、幹事は扇の要に相当する、という切り口から話をさせて頂くつもりでしたが、財団部門に変更になりました。

財団部門は、ベテランの方はよくご存知ですが、初めて来られる方は財団の全体像が掴めなければ財団を理解出来ないだろう、ということで私は全体像を話させて頂きました。

古谷：

ありがとうございました。最後に米田ガバナーノミニー、お願い致します。

米田ガバナーノミニー：



私は会長部門に出席させて頂きました。第1回PETS、第2回PETS、そして今回と3回にわたり一緒に勉強させて頂きましたが、皆様、風格も備わっておられまして、大変落ち着いておられました。

次の地区協議会は私が主催させて頂く立場にあります。本日は村上ガバナーエレクト

トの了承を得まして、私の年度の大きな会議の予定を会長部門でお配りさせて頂きました。皆様のクラブの行事計画と併せて、お考え頂ければと思います。

本日は皆様、大変お疲れ様でした。

古谷：

ありがとうございました。それではロータリーソング『手に手つないで』をご唱和願いたいと思いますので、その場でお立ちになって隣の方と手をつないで頂きたいと思います。ご唱和よろしくお祈いします。

(ロータリーソング『手に手つないで』唱和)

古谷：

ありがとうございました。それでは最後に閉会の謝辞と点鐘を村上ガバナーエレクト、よろしくお祈いします。

村上ガバナーエレクト：



早朝から一日中、本当にご苦労様でした。本日の会議で議論されたことを十分にご自分の身に着けて頂いて、そして7月からの新年度に備えて下さい。来年1年間、どうぞよろしくお祈い申し上げます。(点鐘)



2009-10年度 国際ロータリー第2640地区 組織図

2009. 5. 12

RI 会長 ジョン・ケニー【スコットランド・グランジマウスRC】
RI 会長エレクト レイ・クリンギンズミス【カークスビルロータリークラブRC】
理事 小沢 一彦【横須賀RC】 黒田 正宏【八戸南RC】
事務総長 エド H・フタ【米国ハワイ州・ホノルルRC】

地区諮問委員会《パストガバナー》
 月山 和男(和歌山南) 中島 治一郎(泉大津) 平岡 正巳(羽衣) 瀬戸 新一(御坊)
 大澤 徳平(堺) 楠 公延(高野山) 中村 幸吉(富田林) 亀岡 弘(泉南)
 成川 守彦(有田) 水田 博史(岸和田東) 前田 孝道(和歌山東南)
 小島 哲(泉大津) 前窪 貴志(和歌山南) 平尾 寧章(海南東)
 三軒 久義(河内長野東) 平原 祥彰(粉河) 勝野 露観(和泉)

RI 会長賞・意義ある業績賞選考委員会
 ◎勝野 露観(和泉) 平原 祥彰(粉河)

ガバナーエレクト
 米田 眞理子(堺フェニックスRC)

ガバナー補佐
 1組 矢倉 甚兵衛(串本) 坂口 富茂(田辺はまゆう) 2組 川村 克人(有田) 沖殿 正博(海南)
 3組 小門 篤子(和歌山アゼリア) 神谷 尚孝(和歌山東南) 4組 西山 利昭(高野山)
 5組 山本 正明(堺野) 辻 知昭(河内長野東) 6組 山本 昇三(泉南) 小西 喜代一(貝塚)
 7組 榎本 主税(大阪金剛) 松生 満(志岡)
 8組 山田 義夫(堺) 山本 久(海南) 三村 文男(堺フェニックス)

地区協議会ホスト
 堺フェニックスRC

インターシティーミーティング担当クラブ
 第1組 白浜 御坊 第3組 和歌山
 第4組 粉河 松原 第6組 りんくう泉佐野
 第7組 和泉南 堺東南 第8組

ガバナー
村上 有司
 (田辺RC)

地区ガバナー指名委員会
 ◎ 平原 祥彰(粉河) 月山 和男(和歌山南) 中島 治一郎(泉大津)
 平岡 正巳(羽衣) 瀬戸 新一(御坊) 大澤 徳平(堺)
 楠 公延(高野山) 中村 幸吉(富田林) 亀岡 弘(泉南)
 成川 守彦(有田) 水田 博史(岸和田東) 前田 孝道(和歌山東南)
 小島 哲(泉大津) 前窪 貴志(和歌山南) 平尾 寧章(海南東)
 三軒 久義(河内長野東) 勝野 露観(和泉)

地区幹事
地区代表幹事 吉田 透(田辺)
地区副代表幹事 高橋武雄 津村寛司 坪井敏行 廣本喜亮 古久保和彦
地区幹事 矢野好洋 柴田隆至 中松村夫 榎野吉信 長井保夫 玉井洋司
 植田英明 竹中幸一 朱洋子 市木栄之助 三前剛 横田達夫
 伊賀久記 竹内正巳 木村頼文 稲田大門 新井康司 竹本達也
 寒川真典 三谷昌平 大木誠治 皆瀬正夫 古谷典子 小川豊介
 野村富也 辻啓次郎 山本博章 三前洋 多屋隆夫 木下幾雄
 矢田篤司(田辺はまゆう) 泉房次朗(田辺東)
 桃田隆彦(和泉) 楠玲子(堺フェニックス)

地区財務委員会 ◎ 荷福 實
地区監査 前芝 正典

ロータリーの友 地区委員
 廣本 喜亮(田辺)

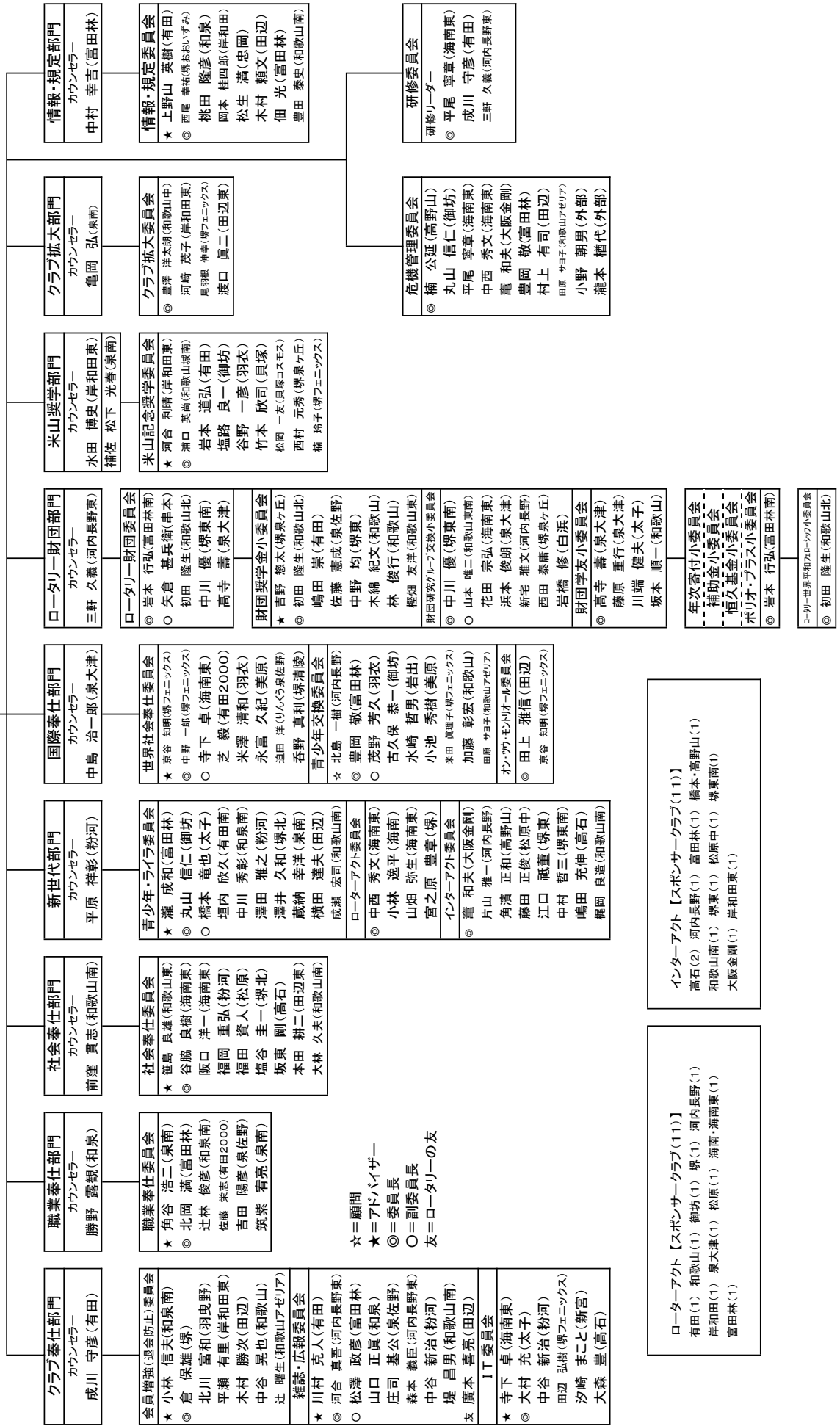
地区大会 2010. 4/17~18
 ◎ 畑地 浩 渡部 正義 廣本 喜亮 川内 潔
ゴルフ大会 2010. 4/5
 ◎ 長野 羊 ゴルフ同好会一同

地区委員会

2009～2010年度国際ロータリー 第2640地区委員会組織表

2009. 6. 8現在

地区委員会



ガバナー補佐 一覽

2009. 3. 15 現在

IM組	お名前	クラブ名	担当クラブ
1組	矢倉甚兵衛	串本	串本・那智勝浦・新宮
	坂口 富茂	田辺はまゆう	白浜・田辺・田辺はまゆう・田辺東
2組	川村 克人	有田	有田・有田南・御坊・御坊南・海南東
	沖殿 正博	海南	有田 2000・御坊東・海南・海南西
3組	小門 薫子	和歌山アゼリア	和歌山東・和歌山城南・和歌山北・和歌山南
	神谷 尚孝	和歌山東南	和歌山・和歌山アゼリア・和歌山中・和歌山西・和歌山東南
4組	西山 利昭	高野山	橋本・橋本紀ノ川・岩出・粉河・高野山
5組	山本 正明	羽曳野	藤井寺しゅら・羽曳野・松原・松原中・美原
	辻 知昭	河内長野東	河内長野・河内長野東・大阪狭山・太子・富田林・富田林南
6組	小西喜代一	貝塚	岸和田・岸和田東・岸和田北・岸和田南・貝塚・貝塚コスモス
	山本 昇三	泉南	阪南・泉佐野・関西国際空港・りんくう泉佐野・泉南
7組	櫻本 主税	大阪金剛	羽衣・忠岡・高石・高師浜
	松生 満	忠岡	和泉・和泉南・泉大津・大阪金剛
8組	山田 義夫	堺	堺・堺東・堺北・堺フェニックス
	山本 久	堺南	堺南・堺西・堺おおいずみ・堺泉北・堺東南
	三村 文男	堺フェニックス	堺北西南西・堺泉ヶ丘・堺中・堺清陵

2009－10 年度 IM 担当クラブ

IM担当クラブ・予定				
	ホストクラブ名	日程	場所	ゼネラルリーダー
1 組	白浜 RC	2009. 11. 14 (土)	コガノイベイホテル	勝野 露観
2 組	御坊 RC	2010. 1. 24 (日)	御坊市民会館	亀岡 弘
3 組	和歌山 RC	2009. 10. 3 (土)	和歌山県民文化会館小ホール	三軒 久義
4 組	粉河 RC	2009. 11. 21 (土)	粉河ふるさとセンター	中島治一郎
5 組	松原 RC	2009. 10. 31 (土)	松原市文化会館	前田 孝道
6 組	りんくう泉佐野 RC	2009. 11. 28 (土)	全日空ゲートタワーホテル	成川 守彦
7 組	和泉南 RC	2009. 11. 7 (土)	テクスピア大阪	水田 博史
8 組	堺東南 RC	2009. 9. 26 (土)	リーガロイヤルホテル堺	楠 公延

ガバナー公式訪問に際しての お願い

- ・クラブ協議会・・・ガバナー補佐が公式訪問 2 週間前までに行う。
公式訪問 1 週間前までに、クラブ協議会の報告書・週報 各 1 部をご提出ください。
- ・会長・幹事懇談会（例会 前後 約 1 時間）

2009 - 10 年度 公式訪問予定表

		(昼の部)		(夜の部)	
		開始時間	クラブ名	開始時間	クラブ名
8月					
26日	水	12:30~	和泉		
29日	土			18:30~	泉佐野・りんくう泉佐野・関西国際空港
9月					
1日	火	12:30~	和歌山・和歌山アゼリア・和歌山西		
3日	木	13:00~	岸和田南	18:30~	堺東南
4日	金	12:30~	御坊	18:30~	和歌山中・和歌山東南
7日	月			18:30~	海南東
8日	火	12:30~	御坊南		
9日	水	12:30~	海南	19:00~	有田2000
10日	木	12:30~	堺・堺西	18:30~	羽衣
11日	金	12:30~	堺北		
15日	火	12:30~	堺東		
16日	水	12:30~	田辺東	19:00~	御坊東
19日	土			18:30~	阪南・泉南
24日	木			18:30~	大阪金剛
25日	金	12:30~	白浜		
29日	火	12:30~	堺北西南西		
10月					
1日	木	12:30~	岩出		
2日	金	12:30~	高野山		
5日	月			19:00~	太子
7日	水	12:30~	粉河		
8日	木	12:30~	忠岡・高師浜	18:30~	和歌山東・和歌山北
9日	金	13:00~	岸和田東		
13日	火	12:30~	松原	18:30~	松原中
14日	水	12:30~	堺おおいずみ	18:30~	河内長野東
15日	木	12:30~	有田	18:30~	堺フェニックス
20日	火			18:30~	堺泉ヶ丘
21日	水	16:00~	羽曳野		
22日	木			18:30~	和歌山南・和歌山城南
27日	火	12:30~	有田南		
28日	水	12:30~	貝塚コスモス	18:30~	堺中
29日	木			19:00~	海南西
11月					
4日	水	12:30~	新宮		
5日	木	12:30~	那智勝浦・串本		
10日	火	12:30~	貝塚	19:00~	橋本紀ノ川
12日	木	12:30~	大阪狭山	18:00~	堺清陵
13日	金	12:30~	美原		
24日	火	12:30~	岸和田北		
25日	水	12:30~	岸和田		
26日	木	12:30~	富田林・富田林南	19:00~	藤井寺しゅら
27日	金	12:30~	河内長野		
12月					
3日	木	12:30~	橋本		
4日	金			18:00~	泉大津
7日	月	12:30~	堺南		
8日	火			18:30~	田辺はまゆう
10日	木			18:00~	和泉南
15日	火	12:30~	高石		
17日	木	12:30~	田辺		



国際ロータリー第2640地区 ガバナー事務所

〒640-8215 和歌山市橋丁23 サイバーリンクスN-4ビル2F

TEL.073-428-2640

FAX.073-428-2643

E-mail:info@rid2640g.org

URL:<http://www.rid2640g.org/murakami/>